

## 人を対象とする医学系研究に関する情報の公開

研究課題名	当院における COVID-19 患者の在宅酸素療法導入の特徴
所属科	リハビリテーション科
研究責任者	高橋 忠志
研究期間	倫理委員会許可日～2022年12月31日
研究概要	<p>○目的</p> <p>COVID-19 では肺の線維化から呼吸機能が低下し、呼吸機能低下の一部は COVID-19 の治療後も遷延することが知られています。退院の際に酸素供給が必要な場合、在宅酸素療法（Home Oxygen Therapy : HOT）を導入することもしばしば経験します。海外での COVID-19 後の HOT の導入は 22.9%という報告がありますが、本邦における HOT の導入率や導入患者の背景因子は不明です。</p> <p>そこで、当院にて COVID-19 の治療を行い、HOT を導入して退院した患者を対象とし、導入率や背景因子について調査することで、COVID-19 患者の後遺症としての呼吸機能障害の有病率を明らかにすることを目的とします。</p> <p>○対象</p> <p>2020年1月29日～2021年10月31日の間に COVID-19 で当院に入院した患者です。</p> <p>○方法</p> <p>診療記録より退院時に在宅酸素療法指導管理料を算定した患者を後ろ向きに調査します。</p> <p>○利用する項目</p> <p>調査項目は年齢、性別、発症日、喫煙の有無、BMI、酸素療法、重症度、合併症（悪性腫瘍、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、2型糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満（BMI30以上）、固形臓器移植後の免疫不全、妊娠後期）の有無、リハビリテーション実施の有無、リハビリテーション実施単位数、在院日数、転帰先、血液検査データ、投薬内容、HFNC や人工呼吸器の使用期間、離脱後からの退院までの期間、などです。</p>

